

教科名【道徳】	
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に、自分のことが好きであると答える児童が多くみられた。一方で、実態として変わらないことは「自分のいいところを知っている」と答える児童が半数程度であるということが分かった。良いことも悪いことも含めて自分を知るといふ、自己認知の力に欠けているといえる。 ・自分のよさを伸ばしたり、自分のよさを発揮したりしたいと思う児童は多い。 ・自分の役割に責任を果たしていると感じている児童が多い。しかし、友達と一緒に成し遂げたり、目標に向かって進んだりするときは人任せになる傾向にある（高学年）
授業革新推進に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別な教科道徳」では、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養う時間を確保するために、指導の効果を高める工夫をしていく。 ・心情を読み取るだけの授業にならないように留意し、教材を通して、自分事として自己を見つめ直し、よりよく生きようとする児童を育てる授業展開をしていく。 ・道徳的諸価値についての理解を基にして、自己を見つめさせていくために、物事を多面的、多角的に考える授業の展開ができるような道徳観を磨く必要がある。 ・他教科、学校行事を実践の場として捉え、実践意欲を養う教員側の見取りを大事にしていく。